

ごとう通信

第 54 号

平成 17 年 6 月 1 日

五月はやはり良かったですね。四月とも違う青空が広がり、洋服は薄着でも厚着でも気持ちいいし。ただ、数日寒かったり、夕立にやられたのは残念でした。でも、「風薫る五月」も堪能できました。

さて、先月も大相撲の本場所が国技館で行なわれました。この「ごとう通信」の古くからの読者の方はご存知のように、僕は蒼樹山（あおぎやま）関（現・枝川親方）とは友人なので、現役時代はとにかく時間を作って国技館に行きました。知り合いがスポットライトを浴びながら活躍する姿は、たかが数秒でもしびれました。最近では、弟弟子の「豊ノ島」も小兵力士として注目を浴び頑張っているよ

うです。彼も付き人として「ふれあい歯科ごとう」に来たことがあるんですよ。

ただ、最近大相撲そのものへの興味が少なくなっています。

僕個人は、蒼樹山引退のためだと思えますが、世間もそうですね。なぜでしょう。僕なりに考えてみました。

表に見える要件は「日本人が弱い」と言うことです。高見山ぐらいがちようどいいという声が聞こえてきそうですね。でも、本質は、「相撲道」だったものが「勝ち負け」に代わってしまったことかもしれません。相撲の面白さって小さいやつも大きいやつも土俵と言う同じ条件で戦うこと



です。土俵で頑張っている。負け力士には大きな拍手が沸きます。しかし、最近の勝負は早い

するよりも明日の一勝なのかもしれませんが…

これは現代社会全体でも言えるのではないのでしょうか。単に「勝ち組」と言われている人だけいる社会は面白くありません。しかも、その判断基準がお金だけだったりすると、「つまらない社会だなあ」とも思います。皆さんはどう思いますか？ホリエモンが最高で、それ以下は負け組といわれたら。

世紀の大横綱にはきつとなれませんが、記憶に残る名大関になりたいなど思った貴乃花の訃報でした。

免疫（めんえき）の話

前号で、免疫の大家の先生と七月にシンポジウムをすることになったという話をしました。僕も緊張！です。そこで、地道に勉強しようと思